

鳥取東高通信

第192号
令和5年3月

編集・発行
鳥取東高等学校 PTA
鳥取県立鳥取東高等学校

題字：柴山 抱海 氏

印刷 日ノ丸印刷株式会社



3年間の思い出



「人生は一度きり」

校長 中島 靖雄

$$1 \quad E = 1/2 MV^2$$

※自分のもっているエネルギーEを過小評価しないこと

物理をとった皆さんはエネルギー $E = 1/2 MV^2$ の公式を学習したはず。

皆さんのEは M:メンタリティー V²:バイタリティーの2乗

何事も心の持ちよう(M)と行動力(V)次第で、皆さんのエネルギーはどんどん増大します！

$$2 \quad J \equiv T$$

※「≡」は数学では「合同」の記号ですね。

「自力(J)は他力(T)」、「他力(T)は自力(J)」人は「自分の力で成し遂げた」と思っている、実は「たくさんの人の支える力」があってこそできるもの。これを「自力は他力」という。

しかし、逆にたくさんの人があなたを支えてくれるのも、普段から培ってきた皆さん自身の力なのです。これを「他力は自力」という。

人は助けたり助けられたりして生きていきます。人生は一度きり。いつも、いつでも感謝の気持ちを忘れないで過ごすことが、皆さんの幸せな人生にきつとつながります！

卒業おめでとう！

贈る言葉



学年長
本田 義志 先生

「限界突破」。この学年のスローガンとしてみんなと共に歩み出した2020年。入学式もマスクをし、友達顔もよくわからないままスタートした1年生。制限ある中、無事行えた高原教育。分散登校や臨時休校などを経験し、迎えた2年生。移動制限で諦めた研修旅行。予定通りいかなかった研修旅行代替バス遠足。手をつないだ後夜祭でのフォークダンス。もう3年経ちました。

思い出すのは制限ある生活の中で、しっかり青春するみんなの姿です。できることを精一杯する。実は当たり前前でなかなか難しいことです。みんなと過ごした3年間は、毎日が楽しく、あっという間に過ぎたと感じるほどです。本当にありがとう。

さあ一步を踏み出した高校生活が終わり、次は親元を離れての生活が始まります。

「いつも心に太陽を」。雲にさえぎられることもあるけれど、常に同じように我々を照らしてくれる太陽のように、自分を信じて心を強く持ち、前を向いて歩みを進めてください。みんなが進む道を楽しみにしています。卒業おめでとう。

ご卒業おめでとうございます。

3年間ありがとう。あなたたちのような温かく逞しい生徒たちと関わることができたことを光栄に思います。

卒業によせて、私はW杯で注目を集めた「三苦の1ミリ」の事を話そうと思います。エリア外に出そうになったボールに、ラインにぎりぎり1ミリかかるところで三苦選手が追いついてパスを出し、ゴールにつながったプレーです。間に合うかどうか分からない状況でしたが、彼は全力で走り、追いつき、パスまで出しました。プレー自体すごいですが、私が特に感動したのは、彼がその一連のプレーで、どの瞬間も諦めなかったことです。諦めない気持ちの連続が、ゴールに届いたのです。奇跡とも呼ばれているようですが、毎日の継続的な努力で得た技術と精神力が生んだ、地に足の着いた1点だと思いました。もしも、この時得点できなかったとしても、彼が持っている力が失われるわけではありませんから、必ず次のチャンスにものにします。私は、このプレーが私たちの人生にも通じる部分があると思い、勇気付けられました。自分も彼のような頑張り方ができる人でありたいと思いましたし、みんなにも、高校生活で得た力をこの先も磨いていき、より豊かで味わい深い人生を力強く歩んでいってほしいと思っています。一人ひとりの人生の目標に、「それぞれの1ミリ」に、届きますように。そんな思いを込めて、この先もずっと変わらず応援しています。また、どこかで会いましょう。



1組担任
平木 章子 先生

言葉



2組担任
中村 貴子 先生

卒業おめでとう

12月下旬、突然みんなに会えなくなってから1週間が経ち、久々に学校に行ってみると、職員室のドアの外から親しげにこちらを見ている4つの目を見つけ、一瞬「誰だろ?」と思ったけど、次の瞬間3年2組の生徒2人だと気づき、まるで卒業生に久しぶりに再会したような、なんだかとても嬉しい気持ちになりました。そして、数ヶ月後は本当に鳥取東高校の卒業生になるんだなあと思いました。その日から3日間、オンラインや対面でみんなに会い、進路の話をし、この1年間でみんなに会える喜びを一番感じる時間となりました。

これからみんなはそれぞれの場所で、色々な人に出会い、様々な経験をするはずですよ。どんな経験も無駄ではなく、きっと何か意味があります。多くのことを吸収して、新しい自分を見つけてください。いつでも

“今”という時を精一杯楽しんでください。成長した卒業生のみんなに会えるのを楽しみにしています。

卒業おめでとう。またいつか笑顔で会いましょう。

次の限界突破の第一歩

この3年間、職員室の担任団の席の一角には「限界突破」のスローガンが掲げられています。今、そのスローガンを見ながらしみじみ思います。皆さんは自分の「限界」を超えて次の一步を踏み出すことができたでしょうか。この3年間の高校生活で、自分の「限界」を突破するべく力を蓄えることができたでしょうか。

皆さんは4月からまたそれぞれ別の道に進みますが、これからも分岐点から一步を踏み出していく瞬間に何度も直面することだと思います。その時々自分の限界を打ち破っていけるような力を常に蓄え続けて、勇気ある一步を踏み出していきましょう。

皆さんが進んでいく道の中には、教員をしているとなかなか知ることのできない進路もたくさんあります。

卒業生がその後どのように活躍しているのか、話を聞いていろいろな世界のことを知ることができるのは、個人的には教員をやっている楽しい瞬間のひとつです。また何年か後に、それぞれの道での活躍を語りに東高に戻ってこられることを楽しみにしています。



3組担任
古泉 真悟 先生



すばらしい日々

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これからの生活にワクワクしている人、不安な人、さまざまな気持ちを持っていると思います。そんな皆さんに、贈る言葉として、この時期になると必ず頭の中に流れてくる、僕の大好きな歌を紹介したいと思います。

その歌は、UNICORN(ユニコーン)というバンドの『すばらしい日々』(作詞・作曲:奥田民生)という歌です。その中に、こんな歌詞があります。なつかしい歌も笑い顔も すべてを捨てて僕は生きてる それでも君を思い出せば そんな時は何もせずに眠る眠る 「すべてを捨てて僕は生きてる」という歌詞は、なんだか薄情な、寂しい感じがするかもしれません。でも、新しい人生を歩み始めたとき、思い出に縛られたり、後悔ばかり残ったり、過去の栄光を引きずったりするのは、きっと足かせにしかならないと、僕は思っています。まずは、目の前の人生を懸命に生き、未来の人生に明るい展望を持つことが大切だと思わせてくれる歌だと思います。それでもきっと過去を思い出すときは来るので。

また、すばらしい日々だ 力あふれ すべてを捨てて僕は生きてる 君は僕を忘れるから その頃にはもうすぐに君に会いに行ける という歌詞もあります。力があふれるようなすばらしい日々を送れているときは、きっと過去のことなんて捨て去って、未来だけを見て生きているのだと思います。世の中の全ての出来事の価値は遡及的に決まる、と僕は思っています。皆さんも、自分の高校生活を今評価するのはやめましょう。五年後、十年後に振り返った時、皆さんの高校生活の価値が決まってくるはずです。そのためにも、思い出に縛られず、明るい未来を描き続けながら、力強く人生を歩んでください。皆さんが、僕のことを忘れたころに、また会いましょう。



4組担任

山口 優介 先生

卒業生へ

ご卒業おめでとうございます。

思えば、昨年4月に初めてこの学年を担当することになり、1年間あっという間に過ぎました。4月の大雨のバス遠足、9月のコロナ禍での学校祭、受験等々、いろんな問題を知恵と努力で乗り切った思い出が走馬灯のように蘇ります。

さて、これから進学、就職に関わらず本格的に社会へ巣立っていきます。高校での生活とは大きく異なり、個人個人の力量が試されるときです。多くの友人をつくり、多くの先輩に学び、多くの後輩の面倒を見てあげてください。そして、ひたすら前を向いて進んでいってください。それでも社会は時に厳しく君たちの前に立ちます。上手くいかないときは、たまにはこの学校のことを思い出してください。この学校で学んだ

ことや思い出はきっとみなさんを助けてくれるでしょう。あと、僕たちはいつでも君たちのことを思って応援していますよ。

最後に、法律を守り、自信と責任を持って人生を歩んでください。



5組担任

吉田 豊 先生

贈る

ご卒業おめでとうございます。

『先生!社会に旅立つ準備万端です』『支えてくれた方々に感謝の気持ちで一杯です』

卒業式を迎え、今このような気持ちでしょうか? 3年間の東高での生活を振り返り、「勉強に部活動に受験に一生懸命取り組んだその価値とは何か」を一度じっくり考え言葉にしてみてください。どんな結果を出せたか、どんな進路を実現できたか、という価値だけではなくありません。3年間の学校生活の中で、自分は本当に伸びるのか、もう限界ではないか、やめてしまいたい、そんなネガティブな気持ちになった時をどのように乗り越えてきたか、幾度となくあったそんな場面を思い出してみてください。自分の可能性を信じれなくなり、自分の努力の仕方に不安になり、そんな中でも成長することを諦めずに続けられた過程にも、大きな価値があると僕は思います。君たちは、そんな落ち込むような現実に対して、前向きな解釈があったからこそ、諦めることなく努力を継続できたのではないのでしょうか。『事実はひとつ、解釈は無限』この経験は将来、なりたい自分になるために、困難に立ち向かい学び成長し続ける自分を必ず支えてくれます。そして「どんな進路実現をできたか」その価値は、どんな環境に身を置かず、そこでの出会いと学びの経験値の大きさだと思います。結果を出せたからOK!ではありません。次のステージでも、素晴らしい出会いに巡り合い、貴重な経験を積み重ね成長し、さらに人生を豊かにして欲しいと思います。最後に、君達と出会い過ごしたこの3年間は、私にとっても大きな価値のある貴重な時間でした。皆さんと共に成長する機会をもらいました。ありがとうございます。



6組担任

田中 智基 先生

理想さえも超えて行け

桜花の中で入学した皆さんが、梅香の中での卒業おめでとうございます。鳥取東高校に赴任して在籍17年。皆さんが生まれた頃に東高に赴任し、その皆さんの卒業を見届けるのは感慨深いです。高校3年間は、コロナ禍でのマスク姿でした。卒業アルバムを見たとき、不思議な感覚になったのは私だけではないはずです。今後、どこかで出会ったとき、マスクがなければ、皆さんのことがわからないでしょう。そのときは『令和4年に卒業した「名前」です。』と必ず名乗ってください。さて理数科では、屋久島に行けず未だに残念に思っています。しかし、皆さんはそのような状況にも負けることなく、学業や課題研究に頑張ってくれました。そして、私や級友が「おバカなこと」「突拍子のないこと」をしても、ずっとしゃべっていても、許容する力のあるクラスでした。そのことは、皆の寛容力であり、皆が安心して過ごせたクラス力だと思っています。さあ、夢に向かって、東高で培った力でどのよ



7組担任

宮脇 進 先生

うな困難にも立ち向かっていける皆さんであってほしいと思います。そして、何より東高卒業生であることを自信に、頑張ってください。3年間ありがとうございました。最後もニーチェの言葉で締めくくりたい。「理想さえも超えて行け」きみの力のすべてを、きみはまだ知らない。きみは理想を抱き、そこへ向かっているが、その理想のある場所がきみの限界地点でない。きみが持つ力はきみが想像する以上に大きく、きみはまだまだ遠くへ行けるのだ。きみの理想を超え、それ以上の憧れの地よりもさらに遠くへ達する力をきみは秘めている。

1年生

冬季高原教育

2月2日(木)・3日(金)
in わかさ氷ノ山スキー場

冬季高原教育を終えて 1年4組 三上 惺禾

今回、私たちは2日間のスキー実習を行った。本来ならば2泊3日という長い日程だったが、新型コロナウイルスの拡大により、宿泊がなくなってしまったり、実習期間が3日から2日に変わったりした。そのため、あまり多く滑ることが出来なかった。私は短期間で上手くなるぞと決意し、スキー実習当日を迎えた。2日間とも天候に恵まれ、気持ちよく滑ることが出来た。私自身スキーをするのは小学生以来だったため、同じコースの人の足を引っ張らないかととても不安に思われた。しかし、昔の感覚が戻り上手く滑ることが出来た。1日目と2日目の午前中は第1リフトに乗り、斜面を曲がる練習と少し発展した練習を行った。それは意外にも難しく、コツを掴むのが大変だった。2日目の午後から第2リフトに乗り滑ることになった。そこは頂上から下が見えないほどの急斜面で怖かったが、実際に滑ってみるとスピードが思った3倍以上出て、楽しく滑ることが出来た。今回のスキー実習はとても楽しかったので春休みや休日に友達や親とまた滑りたい。今回はスキーだったがスノボにも挑戦してみたい。

氷ノ山の思い出

1年5組 西垣 菜央

2泊3日で行われるはずだった冬季高原教育。入学して約10ヶ月一緒に学校生活を送ってきた友達と2泊3日過ごすことを心待ちにしていました。しかしコロナウイルスの影響で2日間の日帰りになってしまいました。

スキー実習ではクラス関係なくレベルに合わせて班を組みました。初めて話す人やあまり話したことのない人と助け合って楽しむことで冬季高原教育の目的を果たせたと思います。昼食は各クラスに分かれて協力して配膳や片付けを行い、カレーや親子丼を食べました。スキーの後にみんなで食べる昼食はとてもおいしかったです。氷ノ山から帰るバスではクラスの友達とたくさん話すことができ、今まで以上に仲良くなった気がします。

私は冬季高原教育で励まし合うことの大切さを改めて実感しました。なぜなら、友達同士で高め合うことで恐怖心がなくなり、レベルが上達したからです。この経験を大切にこれから学校生活に生かしていきたいと思います。

2年生 理数科 課題研究発表

2年生理数科が1年間かけ、少人数のグループで課題研究を行ってきました。研究の成果は冊子としてまとめるとともに、発表会でプレゼンテーション能力を高めま。1グループ10分間で発表を行い、その後も活発な質疑応答となりました。予選では、10グループを2会場に分けて行い、以下の5グループが本選へ進みました。そのうち、最優秀発表賞と優秀発表賞の2グループが鳥取県高校生理数課題研究等発表会に出場します。

* 1月16日(月) 校内予選 * 1月23日(月) 校内本選 * 1月29日(日) 鳥取県高校生理数課題研究等発表会

令和4年度鳥取県高校生理数課題研究等発表会 口頭発表

最優秀賞

本選出場

1 昆虫を利用したキチンナノファイバーの可能性について

大坪奏楽・川戸美岬・川原大和・朽本彩乃・藤吉佑唯



キチンは、地球上に2番目に多い有機化合物といわれている。そのキチン繊維を極限までほぐした物質をキチンナノファイバーといい、現在も幅広い分野で研究が進められている。

しかし、海洋資源の枯渇により、キチン及びキチンナノファイバーの原料であるカニの漁獲量が減少傾向にある。そこで本研究では、カニの代わりに昆虫を利用し、キチンナノファイバーの製造が可能かどうか試み、カニとの違いを検証することを目的とした。

薬品を加える順番などを改良することにより、昆虫を用いた高純度のキチンの製造工程を確立することができた。また、カブトムシの成虫のような硬い骨格を持つ昆虫においても良質なキチンを回収した。さらに、昆虫キチンのナノファイバー化にも成功し、脱アセチル化の程度によるナノファイバー化の違いも明らかとなった。

昆虫キチンのナノファイバーの新たな可能性を検証する中で、カニキチンのナノファイバーと昆虫キチンのナノファイバーの薄膜の物性の違いや、昆虫キチンのナノファイバーが植物の生育において効果的であるということが分かった。

令和4年度鳥取県高校生理数課題研究等発表会 口頭発表

優秀賞

本選出場

2 エリンギおよびキクラゲの菌床栽培における生おからの活用と培地基材としての廃棄物の利用についての研究

戸板実穂・雁長ののか・平家衣織・村本麗唯花



大豆製品を製造する際に生じる絞りかすであるおからは、多くの栄養を含んでいるものの現在廃棄されているものが多く、SDGsの観点からも活用の検討が進められている。鳥取にある豆乳工場でも、熱風乾燥をして乾燥おからにし、エリンギを育てるための菌床材料として地域のきのこ工場へ提供することをはじめている。

しかし、乾燥おからにするには、多くのエネルギーやコストがかかる。そこで本研究では、エリンギおよびアラゲキクラゲの菌床栽培において生おからを活用しての菌床栽培を試みた。

また近年、菌床に用いられるオガコの供給が不足している現状を踏まえ、オガコに代わる培地基材として、コーヒー粕、米粉、わらなどを用いて栽培実験を行った。

生おからは菌床栽培の栄養剤として利用できるだけでなく、生おからを活用することで、様々な食品残渣や農業残渣といった未利用資源が培地基材として利用できる可能性が広がることがわかった。

以下の3グループも本選に出場しました

- ③「人感センサーとIoTを組み合わせた安全装置の作成」
岸田祥太郎・田中克実
- ④「アイスパラントとの混植による塩ストレス緩和効果について」
上根陸斗・城戸洋輝・谷口晴・寺谷陽菜
- ⑤「微生物燃料電池の起電力とその条件およびエネルギーに関する研究」
太田咲真・小畑香野・坂本晃輔・中山琉生・西本七海

他にも5グループが様々な研究を行いました!!

- ・「バイズの定理とその活用について」
- ・「QRコードにおける誤り訂正符号について」
- ・「円周率の計算精度についての研究」
- ・「キチンナノファイバーの抗菌利用の検証とその活用について」
- ・「ビオトープにおける環境条件の検証について」

おしらせ

鳥取東高等学校吹奏楽部

100th anniversary of foundation

第49回

定期演奏会

■ 2023年3月26日(日) 13時30分開場 14時開演
■ とりぎん文化会館 梨花ホール 入場無料 [要整理券]

吹奏楽部の総力を上げ、OB・OGのみなさんと共に作り上げてきた定期演奏会！
ぜひご来場いただき、音楽の迫力、楽しさをご体感ください！



12月以降の部活動等の大会報告

◇吹奏楽

2022日本クラシック音楽コンクール(12/22)

- ・ピアノ部門 高校の部 伊藤 秀(2-2) 全国2位

◇書道

第54回県高校書道展(12/10)

- ・入江 佑香(2-2) 連盟賞 令和5年度全国高文祭出場
- ・岡嶋 真子(2-4) 連盟賞
- ・小谷 真央(2-1) 奨励賞

◇演劇

令和4年度鳥取県東部地区高等学校演劇新人発表会(2/4)

- ・出場

◇将棋

第21回中国地区高等学校将棋選手権大会(12/17~18)

- ・春井 翔太(1-6) 21位
- ・伊藤 侑平(2-5) 25位

◇プログラミング

令和4年度鳥取県小中高生プログラミングコンテスト(12/3)

- ・高校生部門 清水 琉正(1-6) 1位 知事賞

◇水泳

第40回島根・鳥取両県対抗水泳競技大会(2/4~5)

- ・男子個人 200m背泳ぎ 伊藤 孝佐(1-4) 出場
- ・女子個人 200m平泳ぎ 石井 風葵(1-6) 出場
- 200m個人メドレー 浦木 美帆(1-4) 出場

◇柔道

令和4年度全国高等学校柔道選手権大会鳥取県大会(12/9~11)

- ・男子団体 2位
- ・男子60kg級 三好 優智(2-2) 3位
- ・男子66kg級 澤田 睦月(2-3) 優勝 全国大会出場
- ・男子73kg級 上田 晃生(2-6) 3位
- ・男子81kg級 松岡 大智(2-1) 2位
- ・女子無差別級 中野 咲羅(1-4) 2位
- ・女子無差別級 中川 香乃(2-2) 3位

◇ソフトテニス

第13回中国高校ソフトテニス新人大会(1/14~15)

- ・男子団体 決勝トーナメント進出
- ・女子団体 決勝トーナメント進出

◇バスケットボール

令和4年度鳥取県高等学校バスケットボール新人大会(1/8~9)

- ・男子 2位 中国大会出場
優秀選手賞 河本 直弥(2-7)
- ・女子 4位
優秀選手賞 田中 萌衣(2-3)

令和4年度中国高等学校バスケットボール新人大会(2/10~12)

- ・男子 2回戦進出 ベスト8

◇バレーボール

令和4年度鳥取県高等学校新人バレーボール選手権大会(1/13~14)

- ・男子 ベスト8
- ・女子 ベスト8

人権コラム

虹のしっぽ

『あいうえお』の法則

人の人生には、生きていく中で大切にしなければいけないことがたくさんあると思います。そこで、『あいうえお』の法則を紹介したいと思います。

『あ』 ありがとうの心 … 両親を始め、お世話になった人への感謝と自分への謙虚な気持ちがあれば、自然に出てくる言葉です。

『い』 いたわりの心 … 自分自身を労い、相手もいたわって過ごすことが安らかな気持ちを生むでしょう。

『う』 嘘をつかないこと … 他人に対してだけでなく、自分にも正直になること。嘘をなくせば誠実な人生を歩むことができます。虚栄や慢心な心から離れて素直な心を取り戻しましょう。

『え』 笑顔をいつも絶やさないこと … 笑いは心のビタミンと言われます。自分も相手も幸せにする笑顔、いつも笑みを絶やさずにいると、幸せは向こうからやってきます。

『お』 思いやりの心 … 人の気持ちを思いやるということは想像力が必要です。相手の立場に立つということ自分のことだけでなく相手のことを考えること、思いやりは大局を見渡す視野を育てるのに必要なことなのです。

こんな風に考えていくと楽しく笑いが出てきませんか。今からが最高にハッピーでたくさんのお会いがある人生の始まりです。

さあ！東高の皆さん頑張ろう！

(人権教育部 副部長／荒井 義信)

健康・生活部 Column

「健康・生活部」講演会に参加して

10/23(日)にコモンホールから「今日から実践！～免疫力・集中力を高める食事と運動～」というテーマで前半講演と後半ヨガの実演がありました。

講演は、食事と運動と睡眠が今の体を作っている。生活習慣は自分でいかようにも変えることができると言われました。日頃運動しない私には耳が痛くなる話でした。食事については、糖質、蛋白質、脂質の3大栄養素をバランスよく摂ることの大切さを学びました。おやつも市販のスナックとかではなく、果物やナッツ、干しイモやおにぎりにするだけでも栄養バランスがとれるそうです。朝食の一品を具たくさん味噌汁にするだけでも、バランスの取れた食事になります。朝はついつい忙しくて簡単に済ませてしまいがちですが、主食に、ヨーグルトや卵料理などの蛋白質を一品つけるだけでも違うそうです。子どもの食事は親の責任と言っても過言ではないと思います。朝は弁当を作るのに精いっぱいなかなかバランスまでは考えられていなかったもので、参考にしたいと思います。

ヨガは、普段使っていない筋肉が伸びている実感がありました。短時間でしたが、心も体もリフレッシュでき、よい体験ができました。

(健康・生活部 副部長／西山 千恵)

*人権コラム「虹のしっぽ」について

虹にしっぽなんてあるわけないと決めつけないで…。もしもあるなら見つけてみたい。考えるだけで楽しい気分になりませんか？



君の選ぶ道

三年保護者 松本 和志

東高合格発表から早三年、あつという間に父の身長を越えて学歴を越えて成人になり、それこそ人間的に大きく大きく成長した息子よ。

三年生ラストの選手権大会で値千金のヘディングシュートを決め、チームを準決勝に導いた息子よ。

もう卒業だな。おめでと。

これから君はどんな道を選ぶのだろうか。

この道を行けばどうなるものか危ぶまなれ危ぶめば道はなし踏み出せばその一足が道となり迷わず行けよ

行けばわかるさ

開魂アントニオ猪木の言葉である。

君の選ぶ道

それは自分が決めた道

思い切り走り出せ

倒れるまで走り抜け

答えはその先にきつとある

東高で息子に関わってくださった全ての皆さま、大変お世話になりました。素晴らしい体験と経験を、ありがとうございます。

大きな輪となる

三年保護者 水本 恵子

四人きょうだいの一番上で、子育て

の「初めて」はみんな長女が体験させてくれた。いつだって、きょうだいの中で一番最初に「大きくなったなあ」と成長を感じるのには長女だ。

小さい頃、それまで家庭の中で大事に育ててきた長女が、来年は保育園に入園するという時、私は成長を喜ぶと同時に不安でもあった。うちは七人家族で、家庭の中に年子の弟、祖父母、曾祖母もいる。まだまだ小さいのに、保育園という大きな集団の中に入っていくかなくていいのではと思ったりもした。でも、家庭の中という大人の目が届く範囲で楽しく遊んでいた長女の世界はどんなに広がり、三歳を過ぎた頃、家庭の中では収まらなくなってきたと感じた。長女の行動や好奇心は家庭の中からあふれ出し、未知の世界を求めようになった。

高校生になり、地域内の中学校からもっと広い世界へと出て行った長女。新しい友人たちと一緒に長女は成長し、求める世界は広がっていく。

家庭の中の世界が一つの大きな輪だとすると、今まで長女はその中にいる小さな輪だった。でも気が付くと長女の世界という輪は、大きな大きな輪になり、高校三年生の今、家庭の輪からゆつくりと外に出ようとしている。高校を卒業する頃には、長女の輪は家庭の輪から完全に外に出るだろう。ついに長女は自分自身の世界を作り出すのだ。外に出た長女の輪は今後、家庭の輪と一部が重なり合うことはあっても、その中に納まっていた小さな輪に戻ることはない。そのことをさみしく思うと同時に、とても嬉しく思う。いつまでも、君の成長を応援しているよ。

未来に向けて

三年保護者

我が家の子供たちは、それぞれ違う学校に入学しましたが、親としては高校によって、特色の違いもあり、自分の出身校でもあり、その時々でフレッシュ

な気持ちにさせてもらいながら、子供たちの高校生活を垣間見せていただきました。

未っ子の息子は、上の子たちの高校の様子を小学校、中学校の頃から聞きながら、高校生活をどんな風に過ごそうかと思い描いていましたが、コロナ禍に巻き込まれて、広い世界を見渡し、いろんな体験をすることもままならず、制限された世界に飲み込まれ、なんとも窮屈な思いをしなければならなかった三年間だったと思います。それでも学校生活の中で楽しみや学びを見つながら友達と過ごした三年間は、貴重な思い出になっていくと思います。

コロナがいつ収束するのかわかりませんが、それでも時間は進んでいきます。徐々に明るい兆しが見えつつある世の中で大人へのステップをどう歩んでいくのか、迷いながらも、自分で選択しながら人生を歩んでいくって欲しいと思います。

三年間

三年保護者

合格が決まり喜びと希望に満ちあふれていた三年前。親子共々喜んでいてことを思い出します。

いざ学校生活が始まると大変だったのが朝の汽車の時間。母は毎朝時間との闘いでした。汽車に間に合うかとヒヤヒヤ。三年間、毎朝スリルを味わいました。

そして成績もヒヤヒヤ。神社へお参りもしたほどでした。

部活もヒヤヒヤの連続。コロナのため無観客試合になるのか、そもそも大会は開催されるのかという心配が絶えませんでした。そんな中、日々の部活の様子を話してくれることが母の密かな楽しみでした。小学生の頃から九年間部活を続け、頑張る姿を見せ続けて

くれたことが嬉しいのです。息子を全力で応援した日々は私の宝物です。

ヒヤヒヤしっぱなしの三年間で、卒業したら毎朝の汽車の時間との格闘や、寝過ごしてしまっただけの駅まで迎えに行くことがなくなると思うと、ちょっぴりさみしいです。

息子が目指す大学への道のりは困難でしょうが、自分が選んだ道。まわりを何を言われても頑張れるところまでやり抜いてほしいと願っています。

三年間の高校生活を振り返って

三年保護者

三年前、桜土手の桜が満開の中、期待と不安の入り混じった気持ちでこの東高の門をくぐったのを昨日のこのように思い出します。

新しい環境です。まずは友達作りから、娘なりに勇気をふり絞って自分と同じような環境の女子に声をかけ、友達出た。あれから三年、娘はたくさんの友人や仲間と出会い、コロナ禍で制限のある中、部活も勉強も手を抜かず、何事にも一生懸命取り組みました。

そんな中、印象深いのが、小中高九年間続けてきたソフトテニス部で初めて中国大会に出場できたこと。どんなに辛くても毎日の練習を怠らず、何度も自問自答を繰り返して、スランプを克服してきた成果の現れだと思えます。残念ながらインターハイ出場は逃しましたが、この三年間の努力で培った強い精神力はかけがえのない財産で、一緒に戦った仲間が一生の宝です。そして、試合を重ねることに着実に力を身に付けて、様々な大会で表彰され、私たちが家族にもたくさんの喜びと勇気を与えてくれたことに心から感謝しています。中国大会が終わるまで、部活と受験勉強の両立が大変でしたが、自分を追い

込み、オンオフのメリハリをつけ、時間をうまく使えるように成長できました。そして、何よりも一日も休むことなく三年間学校に通ったこと、それだけでも素晴らしい！

先日配布された「東高通信」を見ると、東高での生活が楽しく充実したものであったことが想像できます。これも出会った友人、部活の仲間、先生方、皆さんのおかげです。

いよいよ巣立ちの時、十八年間の子育てが終わる、親元を離れていくのは嬉しくもあり寂しくもありますが、これからは遠くで見守り、サポートしていきたいと思っています。

卒業おめでとう！これまで身につけたものを今後の人生に活かし、自信を持って自分の歩む道を進んでいく欲しいと切に願います。

旅立ち

三年保護者

世界中が未知のウイルスの脅威にさらされ、嘗てない状況の中、我が子の高校生活はスタートしました。

入学直後から分散登校、その後もオンライン授業、行事の中止、縮小など、思い描いていた学校生活とは程遠いものでした。それでも、勉強、部活、学校行事と全力で取り組んでいる姿は頼もしく感じました。

しかし、毎日のハードな練習、中学とは比べものにならないほどの大変な勉強など、決して楽しいことばかりではなかったと思います。ですが、どの経験もひとつとして無駄なことはありません。高校生活で得た糧を今後の人生に役立ててください。これから先も、応援しています。そして、あなたの幸せを、ずっと、祈っています。

卒業、おめでとう。

鳥取東高通信192号に写真、原稿等ご協力いただいたみなさまに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。文化広報部一同

祝 卒業 令和4年度卒業生

